長崎大水害から学ぶ

過去の災害から学ぼう!

7.23　長崎大水害の教訓

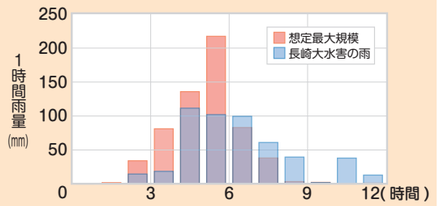
昭和57年（1982年）７月23日に長崎市を襲った集中豪雨は、降り始めから25日までの3日間に573㎜を記録するという未曽有の降水量をもたらし、特に23日の午後7時から午後8時までの時間雨量は111.5㎜に達し、市全体にわたり多くの尊い人命と財産を奪うとともに経済活動・都市機能などに甚大な被害をもたらしました。

※　7.23長崎大水害の浸水範囲は、P7～16に示しています。出典：国土交通省の災害履歴図（昭和57年7月豪雨：洪水による浸水域）をもとに、長崎市のS57災長崎地区集中豪雨災害状況図（昭和57年10月作成）を参考に修正

長崎市の被害

人的被害	現長崎市内の死者行方不明者264人 （県内死者行方不明者299人） 芒塚町17人、上戸石町15人、 平間町8人、川内町8人など
倒壊・浸水家屋	27,331世帯
崖崩れ	535箇所
道路崩壊	1,113箇所
ライフラインの被害	水道停止　約93,000戸 停電　約62,000戸 ガス停止　約42,000戸

長崎大水害の雨と今回のハザードマップで想定した雨



被災状況（東長崎中学校）

被災状況（土石流）

復旧事業では、河川の屈曲部を直線的にすることで流れをスムーズにするとともに、下流側では、土地区画整理事業と合わせて整備を行うなど、大規模な河川改修が施され、長崎大水害程度の大雨では溢れないようになりました。

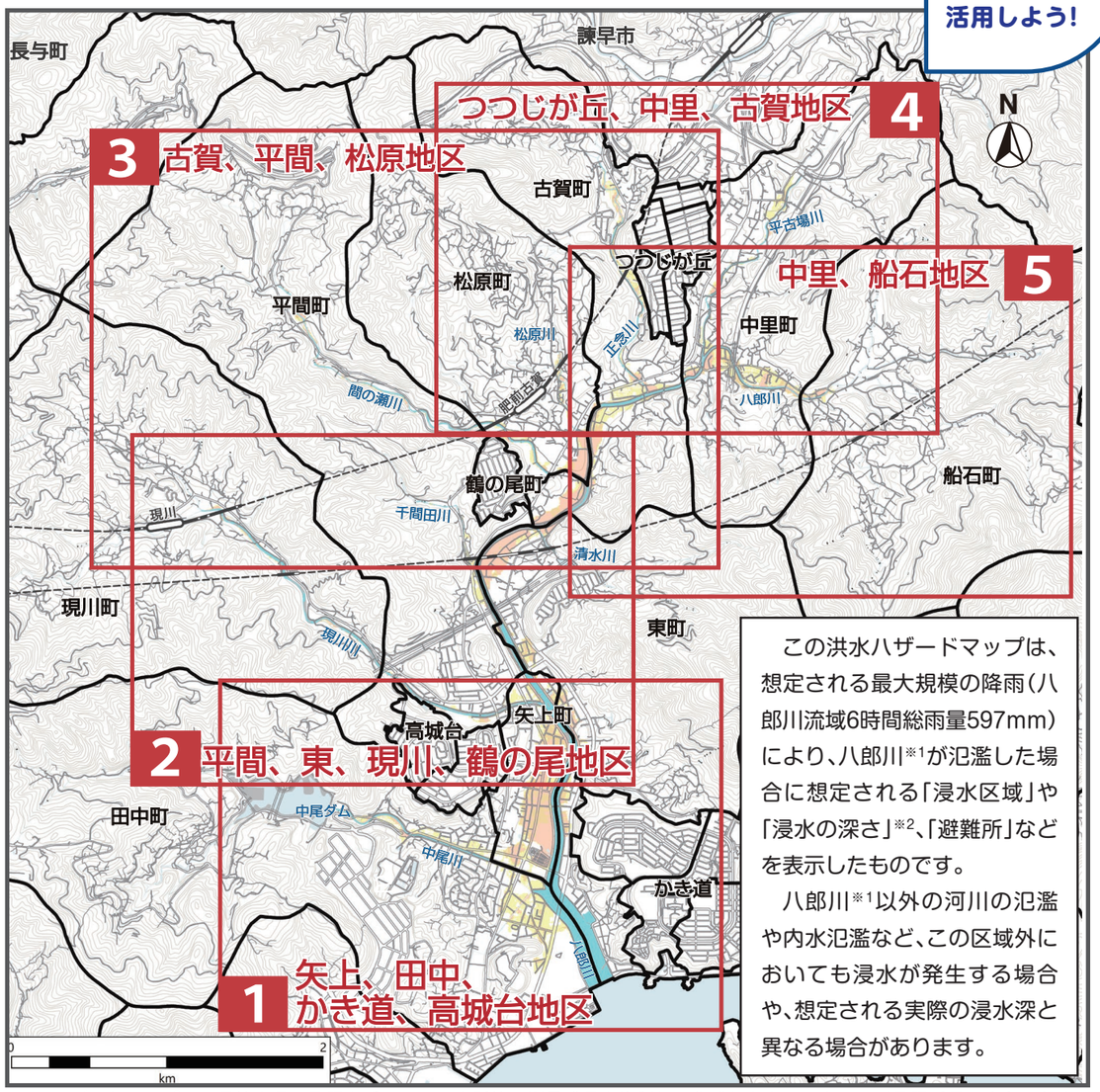
しかし、近年のゲリラ豪雨など長崎大水害を超える雨が降る可能性もあることから、洪水に対する備えが必要です。

昭和 57 年長崎大水害以前 (1975 年)

現在の状況 (2010 年)

洪水ハザードマップ（全体図）

洪水ハザードマップを活用しよう!



この洪水ハザードマップは、想定される最大規模の降雨（八郎川流域6時間総雨量597mm）により、八郎川※1が氾濫した場合に想定される「浸水区域」や「浸水の深さ」※2、「避難所」などを表示したものです。

八郎川※1以外の河川の氾濫や内水氾濫など、この区域外においても浸水が発生する場合や、想定される実際の浸水深と異なる場合があります。

このハザードマップは、長崎市長の承認を受けて、同市所管の測量成果を複製して作成したものである。（承認番号　令和４年度長都計第３号）

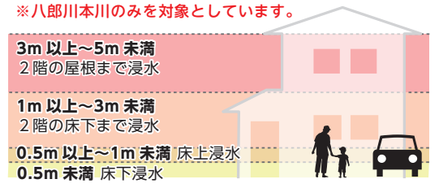
地図表示

浸水の深さ／状況

家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸侵食）

堤防が削られて、建物の倒壊が想定される区域

※八郎川本川のみを対象としています。



避難行動

早期に立退き避難が必要な区域

→ 特に早めの避難を心がけましょう
・氾濫が既に始まっている場合
　→近隣の安全な場所へ
・外出すら危険な場合
　→屋内安全確保

→ 原則として

立退き避難

浸水時に想定される状況を踏まえ、自らの判断により屋内安全確保

水位周知区間
（水防法の規定により定められた想定最大規模降雨による浸水想定区域の対象となる河川区間）
※長崎県告示の浸水想定区域は、長崎県のホームページ（P1参照）からご確認ください。

※1　対象河川:八郎川水系八郎川、平古場川、正念川、松原川、間の瀬川、千間田川、清水川、現川川、中尾川
※2　洪水浸水想定区域は、長崎県が水防法に基づき令和３年３月12日に指定した洪水浸水想定区域図及び、長崎県が実施した浸水シミュレーション結果に基づき作成しております。